

事業報告

企業集団の現況に関する事項 事業の経過及び成果

当社第 48 期（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）における事業の概要につきご報告申し上げます。

当事業年度の当初の世界経済は予断を許さない状況でしたが、全体として期間を通して回復基調となりました。米国経済は、減税効果もあり、堅調な雇用・所得環境と個人消費と投資の拡大が回復を支えました。欧州も堅調な内需と雇用改善に加えて輸出の増加もあり、経済は緩やかに回復しました。中国経済は政策により内需、輸出ともに伸長し、計画通り 6.9% の GDP 成長が達成されました。ASEAN 主要 5 ヶ国も、域内全域の景気回復により、GDP は 5.7% 伸長しました。新興国においてもインドの GDP 成長率が 6% 台を維持するなど、成長率鈍化はあるものの依然として高い成長を続けております。

わが国経済においても日経平均株価が一時 2 万 4,000 円台を記録するなど企業部門が景気のけん引役となり、輸出、設備投資、鉱工業生産が増加し、個人消費も底堅く景況感の改善が進んでおります。企業の好業績及び人手不足から賃金も引き続き緩やかな上昇傾向にあります。

このような環境の中、当社グループは中期経営計画「CREATE NEXT ARB 2026 第一期 5 ヶ年計画」を策定し、2 月にはインド法人（ARBROWN INDIA TRADING Pvt. Ltd.）を設立するなど、アジアのブラウンへの新たな一歩を踏み出しました。

当事業年度の売上高は、好調な電子材料事業に支えられ 102 億 36 百万円と前期比 1.2% の増収となりました。営業利益では人材への投資に伴う人件費の増加や、本社移転に伴う費用の増加などがあり 4 億 28 百万円と前期比 12.7% の減益となりましたが、経常利益では為替差益などの計上もあり、4 億 56 百万円と前期比 8.4% の増益となりました。

上海布朗商行有限公司、AR BROWN (THAILAND) Co., Ltd.、ブラウンテクノロジーズ株式会社との連結決算では連結売上高 112 億 78 百万円と前期比 5.2% の増収となりました。これは中国・タイ現地法人において 52.7%、48.0% の増収と大幅に売上を伸長させることが出来たことに起因するものです。その結果、連結営業利益では 7 億 78 百万円、連結経常利益は 7 億 24 百万円とそれぞれ前期比 9.3%、35.1% と増益となりました。

第 49 期は、当期設立したインド法人の営業活動を軌道に乗せ、海外拠点間でもビジネスを拡大するなど一層グローバルな企業として、冒険家精神を忘れることなく邁進してまいります。

当事業年度の事業別実績、概況は下記の通りです。

電子材料事業は、国内、中国、タイ全てで増収・増益となり、連結ベースで 16.3%、19.2% の増収増益となりました。カーエレクトロニクスセグメントでは国内、韓国が昨年度に続き伸張しました。中国では日系、韓国系に続き、欧州メーカーにも取引を開始することが出来ました。家電・情報通信セグメントでは中国、タイが家電用途を中心に大幅に伸長し、国内ではサーバー用途向け新規ビジネスが業績を押し上げました。エレクトロニクスケミカルセグメントにおいて昨年度より取扱いを始めた放熱フィラーが、国内で立上がり、今後の伸長が楽しみな商材であることが証明されました。昨年度 50% の株式を取得した韓国 NECSIM 社の放熱塗料・特殊ヒートシンクビジネスは本格的な立上げには至りませんでした。韓国顧客、日本顧客向けに大型案件を推し進めています。

機能化学品事業は、連結ベースで 2.1%、0.5% の減収減益とほぼ横ばいの結果でした。国内は年末まで続いた円安・値上げの影響を受けて塗料・インキセグメントが低迷したものの、粘接着剤セグメントは年間を通して堅調であり、タイヤセグメント、化学品中間体ビジネスが下期に大幅伸長したこと、そしてパーソナルケア・ハウスホールドケアセグメントでの複数の新規商材の立上げが牽引し相当数の新規顧客を獲得できたことにより、3.8%、4.4% の減収・減益に収められました。タイでは主力のタイヤ関連ビジネスの伸長に加えて、バイオサイドビジネスも伸長し、58.5%、39.5% の増収増益でした。

精密化学品事業は、2.3% の減収、8.5% の減益となりました。新薬セグメントでは従来ビジネスに加えて、バイオ医薬品の中間体の納入を果たせたことが寄与して伸張しました。ジェネリックセグメントでは、抗がん剤原薬の販売を開始することができました。畜産関連の食品検査セグメントは増収増益でした。年度末には新型ミルクチェッカーと牛乳房炎検査試薬 SCC DUNK を新たに上市でき、来期以降の貢献が期待できる段階に漕ぎ着けました。航空宇宙セグメントは新規商材のスペックイン活動を進めましたが、今期は減収減益に終わりました。

ライフサイエンス事業は 4.3%、8.2% の増収減益でした。バイオ基礎研究セグメントは一部商品の品質問題により販売活動の中断を余儀なくされたため減収減益となりました。一方医薬品製造の品質管理工程向け滅菌関連商材ビジネスは二桁伸長し、また畜産ブリーディングと不妊治療分野は合算で大幅な増収増益となりました。12 月にはブラウン・テクノロジーズ主催で不妊治療に関するセミナーとワークショップを開催し、多くの参会者を得て、業界の関心の高さを確認できました。ナノメンブレンは主要顧客における仕様変更検討が難航し、大幅な減収減益となりました。

電子機器事業は連結ベースで 13.8%、19.1% の減収減益でした。自動車セグメントは国内では ADAS(先進運転支援システム) 関連の試験計測機器の販売が昨年度には及ばなかったものの高水準を維持し、昨年度より営業活動を開始した中国では、複数の納入実績を上げることができ、来期以降に備えて更なる拡販体制に入りました。またタイヤ産業向けには、新規商材を増やし提案の幅を広げました。加速度センサービジネスを中心に、航空宇宙セグメントも堅調に推移しました。エレクトロニクスセグメントではパワー半導体用ソケットの納入実績ができた一方、サーモストリーマーの開発が大幅に遅延し、年度末に何とか開発を終了しました。

営業開発事業の一つである ESA(ガス・オイル燃料燃焼効率向上装置) ビジネスでは、改めてフィールドにおける系統だった実地試験を行い、効率に影響を与えるパラメーターの把握を行いました。新ビジネスモデルを使い、そのフィールドデータを活用し、来期より本格的な拡販活動を開始する礎を築きました。